

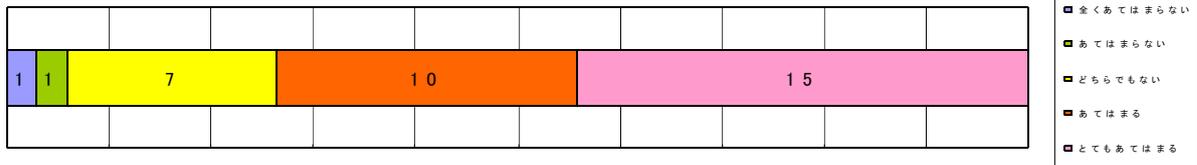
1. 本活動設定の理由

○こんな児童だから

本学級の子ども達は，第 3 学年から総合的な学習の時間の中で英語活動に取り組んでいる。ALT と一緒に，身近な物の名前を言ったり簡単なゲームをしたりと，楽しく英語活動に親しんできている。また，数人の ALT と関わってきたことで，外国の人と接することへの抵抗感が薄れ，自分から挨拶をしたり休み時間を一緒に過ごしたりする姿が見られるようになってきた。しかしながら，高学年になり「英語は話せないからなあ。」「習っている人は得意かもしれないけど。」など，苦手意識を感じ始めている児童も数名いることが分かった。「○○しなければならぬ」という見方を変え，英語活動をもっと楽しむことのできる工夫が必要である。

資料：アンケート調査の結果

○ 英語活動の時間は好きですか（そのうち，学校以外に英語を習っている… 10 人）



「全くあてはまらない」「あてはまらない」「どちらでもない」と回答した理由として，

- ・外国の人と話ができないから
- ・英語で話すのが嫌だから
- ・「～は好きですか」「～は嫌いですか」ばかり聞くのが嫌だから
- ・あててほしくない時にあてられるから
- ・無理矢理覚えさせようとするから

などがあげられた。

また「好きである」と回答した理由としては，

- ・ゲームを通して楽しく覚えることができるから
- ・みんなでゲームができるから
- ・知らなかったことが分かるから
- ・外国のことを教えてくれるから

などがあげられた。

この結果からも，児童が感じている緊張をやわらげ，知る喜びや活動への満足感を味わうことができるような支援を工夫していく必要がある。

○こんな資料で

児童が「もっと知りたいな」「みんなは知っているかな」と続きを楽しみにできるような内容を段階的に提示していくようにする。また，内容については，児童が興味・関心をもっていることを調査し計画の中に組み入れたり，ALT の故郷である国を取り扱ったりすることで，「人」を入り口として異文化への関心を高めるようにする。

○こんな「3 ステップ」の工夫で

各段階において，外国の言葉や文化に対する興味・関心が高まるように，下記のような活動の工夫を行っていく。

(1) 「ステップ 1」では，

ALT からの情報を受け止め，話題に対する意欲・関心を高めることをねらいとしている。話題への入り口として，分かってほしいと聞いていたり想像を膨らませて聞いていたりできるように，情報を制限して提示し興味が高まるようにする。ここでは絵や写真を使うなど，推察しながら聞くことができるような資料を準備しておくようにする。

(2) 「ステップ 2」では，

自分の生活経験や自国の文化と比較していくことを通して，異質性や同質性に気付いていくことをねらいとしている。違う部分(外国の文化)だけでなく同じ部分(日本の文化)にも目を向けさせることで，お互いのよさに気づかせ，もっと知りたいという意欲を高めるようにする。その際，必ず ALT など人を通じた活動や内容になるよう留意する。

(3) 「ステップ3」では、

これまでの取組をきっかけに、広い世界に興味をもったり、もっと知りたい調べてみたいという気持ちを高めたりすることをねらいとしている。ワールドトリビアタイムカードを準備し、1つの話題をまとめていく時間をとるようにする。ポートフォリオ形式で残していくことによって、関心の高まりを実感したり知ることのよさに気付いたりすることができるようにする。

2. 目標

- 我が国をはじめ外国の言語や文化についての興味・関心を高める。
- 我が国をはじめ外国の言語や文化について、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

3. 計画

活動内容	ステップ1	ステップ2	ステップ3
世界のみんなと じゃんけんぽん	「ALTとじゃんけんぽん」 ALTの国では、じゃんけんはどの順番でするのか知り、実際に遊んでみる。また、鬼を決めるときの数え歌も歌ってみる。	「日本全国じゃんけんぽん」 日本だけでもたくさんのじゃんけんのかけ声があることを知り、いろいろな県に行ったつもりで、旅行じゃんけんを楽しむ。	「世界のみんなとじゃんけん」 世界の国々には様々なじゃんけんのかけ声や意味があることを知り、楽しみながら世界旅行じゃんけんをする。
英語？カタカナ語？	「英語， True or false」 国語「和語・漢語・外来語」で学習した内容をふり返り、ALTが提示する言葉が英語として通じるか通じないかを考える。	「海を渡った日本語」 日本独自の文化や習慣を表す言葉の中には、そのまま通じるものがあることを知り、言葉に対する興味を深める。	「どの国の言葉かな」 カタカナで表す文字の中にも英語だけでなくいろいろな国の言葉があることを知り、言葉に対する興味・関心を高める。
世界の宝	「知ってる？世界遺産」 2007年現在851の世界遺産が登録されていることを知る。また、ALTの故郷の世界遺産についての話を聞くことで興味を高める。	「日本にもあるよ」 日本にも世界に誇る文化遺産があることを知る。また、それについて外国から寄せられているコメントを聞くことで見聞を深める。	「世界の宝の旅」 外国ならではの世界遺産とその役割を知り外国の文化についての興味・関心を高める。

4. 本時 平成19年 10月 23日(火) 5校時 教室にて

5. 本時指導の考え方

本学級の児童は、前回の活動でALTの歌う「おに決め歌」や世界のじゃんけんに触れてきている。初めて知る喜びを感じている姿や、表情豊かに提示してくれるALTに親しみを感じている姿が見られた。

本時の活動は、身の回りにある「カタカナ語」を話題にし、国語科で学習した「和語・漢語・外来語」と繋げながら活動を展開していく。日常使っているカタカナ語のほとんどが英語であると考えている児童が多いため、ALTが示す日本のカタカナ語が英語であるかどうかの話題は、大変興味深いものであると考える。

そこで、ステップ1では「英語 true or False ゲーム」を通して、児童の言葉への興味・関心を高めるようにする。ALTの話を通して気付きをもたせていくことで、「聞いてみたい」「もっと知りたい」という思いを高めていくようにする。

6. 本時授業仮説

本時におけるワールドトリビアタイムにおいて、ALTとHRTの身近なカタカナ語についての会話を聞く場を設定すれば、言葉に対する関心が高まり、興味をもってALTとかかわろうとすることができるであろう。

7. 本時の目標

- 身近なカタカナ語を通して言語に対する興味・関心を高める。
- 身近なカタカナ語について、ALTに積極的に尋ねようとする。

8. 準備

教師：カタカナ語の絵カード 色シール
児童：身近なカタカナ語を集めたカード

9. 展開

		ねらいと主な活動	HRT	ALT
ステップ 1	身回りのカタカナ語が英語かどうか確かめよう。	1 ALTとHRTの会話を聞き今日の話題の内容をつかむ。	H:We had learned about loanwords, "GAIRAIGO". May I ask some questions ? A:Yes,of course. H:This is "ARUBAITO". Is this an English word ? (First, I ask students) A:No.	
		2 身の回りにあるカタカナ語が英語かどうか話し合い, ALTの問いかけに答えながら確かめていく。	・絵カードを準備し, 確かめているカタカナ語が視覚的にも分かるようにする。 ・前時までに準備したカードや教室にあるものなどを示すことで, 積極的に質問ができるようにする。	Please pose some questions while showing the cards. "Let's say true or false." (please talk about your experience in Japan.)
ステップ 2	外国でも使うことのできる日本語を知ろう。	1 前時をふり返り, 身の回りのカタカナ語が英語だけではなくたことを確認する。	・前時の活動が想起できるように, 掲示物を準備する。 H:Keith-Sensei,How long are you in Japan? A: H:When you were in England, What kind of image did you have about Japan? A:(Please talk about what you imaged about Japan.)	
		2 ALTの話聞き, そのまま使われている日本語がある事に気付く。	・会話の内容をつかむことができるように大きな身ぶりで話すようにする。	
ステップ 3	身回りのカタカナ語がどの国のものか考えよう。	3 日本に昔からあるものや代表的なものを表す日本語が, 外国でそのまま通用するか質問する		
		4 感想を出し合う。	・ステップ1, 2での話題をまとめたカードを準備し, これまでの活動を振り返ることができるようにする。 ・英語ではなかったカタカナ語について取り上げ, どの国のものか考えさせる。 ・答え合わせで終わらないように, 興味・関心の高まりを賞賛し次時の活動へと繋げるようにする。	